

|   |   |    |         |          |
|---|---|----|---------|----------|
| 1. 科目名(単位数)   | 経済学特論 (2単位)   | 池袋 | 3. 科目番号 | SSMP5355 |
| 2. 授業担当教員   | 李 青雅  |    |         |          |
| 4. 授業形態   | 講義、演習の方法をとる。オンライン授業の場合は工夫して、できるだけリアルなやりとりもしていきたい。   |    | 5. 開講学期 | 秋期       |
| 6. 履修条件・<br>他科目との関係                                     | 特に指定しないが、これから労働問題を研究したい学生にお勧めする。  |    |         |          |
| 7. 講義概要   | 本学大学院で学ぶのが相当と考えるレベルの経済学を定評のあるテキストを使って講義・演習する。社会保障・福祉や日本経済をはじめとする実際の経済との関連についても考える。  |    |         |          |
| 8. 学習目標   | 経済学的視点からの分析能力を高め、論文の執筆の十分な拠り所となるような識見を高める。  |    |         |          |
| 9. アサイメント<br>(宿題)及びレポート課題                               | 働くひとたちが抱えている諸問題(労働移動、賃金格差、非正規労働、メンタルヘルスなど)をテーマとした論文を読んで、レポートを作成・発表すること。   |    |         |          |
| 10. 教科書・参考書<br>・教材                                      | <p>【教科書】大森義明・永瀬伸子『労働経済学をつかむ』有斐閣、2021年。</p> <p>【参考書】</p> <p>小崎敏男・牧野文夫・吉田良生『キャリアと労働の経済学(第2版)』、2022年。</p> <p>石山喜英著 『超高齢化社会の経済学』日本評論社</p> <p>ジョセフ・E・スティグリッツ、カール・E・ウォルシュ共著 『スティグリッツ 入門経済学』 第4版<br/>(藪下史郎、秋山太郎、蜂川靖浩、大阿久博、木立力、宮田亮、清野一治訳) 東洋経済新報社 2012年</p> |    |         |          |
| 11. 成績評価の規準と<br>評定の方法                                   | <p>○成績評価の規準</p> <p>この講義を受講後、受講前の状態に比べて、どの程度経済に関心が持て、経済的観点から社会福祉等の問題を考えるようになったかを基に評価。</p> <p>○評定の方法</p> <p>発表・・・30% ミニテスト・・・30% レポート・・・40%</p>   |    |         |          |
| 12. 受講生への<br>メッセージ                                      | 本講義は、経済学の中でも労働経済学に焦点をあてている。講義を通じて、今日の労働市場が抱えている諸問題を客観的に分析する視点を養ってほしい。また新聞、雑誌等を通じて経済記事に関心を持ってほしい。  |    |         |          |
| 13. オフィスアワー   | 授業中に提示  |    |         |          |
| 14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】 |   |    |         |          |
| 1. テー マ   | 日本の労働市場   |    |         |          |
| 【学習の目標】   | 労働関連の統計データを通じて、日本の労働市場についての理解を深める。  |    |         |          |
| 【学習の内容】   | 労働の構造を示す統計指標として労働力率、労働時間、賃金などがある。これらの統計指標は実に多くの情報を提供する。労働統計により、日本の労働市場の現状と問題を把握する。加え、労働市場における賃金と雇用量の決定メカニズムについて学ぶ。  |    |         |          |
| 【キーワード】   | 労働統計、労働力率、賃金率、労働時間、労働市場、労働需要曲線、労働供給曲線、均衡賃金、均衡雇用量  |    |         |          |

|        |  |
|--------|--|
|        | <p>【学習の課題】 厚生労働省や総務省統計局のホームページから労働統計を検索し、日本の労働市場の特質をつかむ。</p> <p>【学習する上での留意点】 データは我々に多くのものを教えてくれる。統計データを読み取る力を養うこと。</p>   |
| 2. テーマ | 労働供給   |
|        | <p>【学習の目標】 「所得と余暇の選択理論」を学び、個人が就業や労働時間を決定するメカニズムを論理的に説明できる。</p> <p>【学習の内容】 働くことは「所得（消費）」を得る手段だが、同時に「余暇」の犠牲を伴う。所得と余暇のトレードオフを、無差別曲線と予算制約線を用いて論理的に整理する。賃金変化が労働供給に与える影響を、代替効果と所得効果の観点から説明し、扶養枠内就業や長時間労働といった日本の実例との対応関係を検討する。</p> <p>【キーワード】 労働供給、トレードオフ、予算制約線、機会費用、限界費用、無差別曲線、限界効用、限界原理、代替効果、所得効果</p> <p>【学習の課題】 労働供給に関する実証論文を1つ探し、内容をまとめる。</p> <p>【学習する上での留意点】 理論モデルの予測が、現実の就業行動にどのように表れているかを意識して読むこと。</p> |
| 3. テーマ | 労働と家庭内生産：世帯内の時間配分  |
|        | <p>【学習の目標】 家庭内生産モデルを用い、市場労働・家庭内労働・余暇の時間配分を説明できる。</p> <p>【学習の内容】 市場労働、家庭内生産、余暇の三者間の時間配分を、限界生産量と機会費用の観点から整理する。育児・介護と就業の両立、ワークライフバランス、育児休業制度が労働供給に与える影響を検討する。</p> <p>【キーワード】 市場労働、家庭内生産活動、家庭内生産モデル、限界生産量、限界購入量</p> <p>【学習の課題】 育児休業制度や保育所整備が時間配分に与える影響を説明する。</p> <p>【学習する上での留意点】 日常的な選択を、機会費用と生産性の観点から捉え直すこと。</p>  |
| 4. テーマ | 労働供給の実証分析：理論の検証  |
|        | <p>【学習の目標】 労働供給に影響を与える諸要因（賃金、制度、家庭環境）が、実際のデータを用いてどのように検証されているかを理解する。</p> <p>【学習の内容】 女性の労働供給、育児休業制度、時短勤務制度などを対象とした実証研究を読み、制度変化が就業行動に与えた因果的影響を検討する。</p> <p>【キーワード】 実証分析、因果関係、女性の労働供給、政策評価（育児休業・時短勤務）</p> <p>【学習の課題】 独立変数と従属変数の関係を整理する。</p> <p>【学習する上での留意点】 相関と因果を区別して読む姿勢を持つこと。</p>  |
| 5. テーマ | 労働需要：労働者数と労働時間の決定  |
|        | <p>【学習の目標】 企業の雇用決定を限界費用の観点から説明できる。</p> <p>【学習の内容】 労働者数と労働時間の選択を、準固定費用と可変費用の違いに注目して整理する。残業規制や人手不足が企業行動に与える影響を検討する。</p> <p>【キーワード】 労働需要、準固定費用、可変費用、限界生産物の逓減、限界収入、限界費用</p> <p>【学習の課題】 割増賃金率の引き上げの影響を考察する。</p> <p>【学習する上での留意点】 企業は「総労働量」だけでなく、その「内訳」をコストと収益のバランスで最適化している点を理解すること。</p>  |
| 6. テーマ | 労働需要の実証分析：企業の雇用行動と政策効果   |
|        | <p>【学習の目標】 政策や技術変化の雇用効果を理解する。</p>  |

|         |  |
|---------|--|
|         | <p>【学習の内容】 最低賃金引き上げや生成 AI 導入の影響を扱った実証研究を通じて、理論的予測と現実の乖離を検討する。</p> <p>【キーワード】 実証分析、生成 AI 最低賃金、雇用弾力性、割増賃金、政策評価 (働き方改革等)</p> <p>【学習の課題】 実証結果を理論と比較する。</p> <p>【学習する上での留意点】 市場の不完全性に注意する。</p>   |
| 7. テーマ  | 教育・訓練と人的資本   |
|         | <p>【学習の目標】 教育投資の経済的意味を説明できる。</p> <p>【学習の内容】 人的資本モデルとシグナリングモデルを比較し、教育・訓練が賃金やキャリアに与える影響を整理する。</p> <p>【キーワード】 人的資本モデル 現在価値、借入制約、シグナリングモデル 一般的訓練、企業特殊訓練、共同投資、経験年数、勤続年数</p> <p>【学習の課題】 教育投資行動の変化を分析する。</p> <p>【学習する上での留意点】 教育を投資として捉える視点を持つ。</p>  |
| 8. テーマ  | 長期雇用の賃金決定のメカニズム  |
|         | <p>【学習の目標】 年功序列賃金を理論的に説明できる。</p> <p>【学習の内容】 後払い賃金モデルを用いて、日本的雇用慣行の機能と限界を整理し、役割給への移行を考察する。</p> <p>【キーワード】 後払い賃金の理論、怠けのモデル、年功序列賃金、新卒一括採用、日本的雇用慣行、内部労働市場、外部労働市場、職能資格給、役割給、働き方改革</p> <p>【学習の課題】 流動化と賃金制度の関係を考察する。</p> <p>【学習する上での留意点】 学生が将来直面する「給与体系の変更」や「ジョブ型への移行」といったニュースを理解する。</p>           |
| 9. テーマ  | 転職・就職  |
|         | <p>【学習の目標】 ジョブサーチ理論を理解する。</p> <p>【学習の内容】 転職の賃金効果や解雇規制の影響を、理論とデータの両面から検討する。</p> <p>【キーワード】 ジョブサーチ、人的資本の摩耗、オン・ザ・ジョブ・サーチ、転職、有効求人倍率、労働市場の流動化、解雇規制、転職直後の賃金変化</p> <p>【学習の課題】 転職によって賃金が上昇する労働者と、逆に低下してしまう労働者の違いを、第 7 回で学んだ「一般的訓練」と「企業特殊訓練」の概念を用いて説明せよ。</p> <p>【学習する上での留意点】 転職のポジティブな側面にも注目する。</p> |
| 10. テーマ | 賃金格差   |
|         | <p>【学習の目標】 賃金格差の要因を理解する。</p> <p>【学習の内容】 人的資本理論と差別の理論を区別し、日本の格差問題を検討する。</p> <p>【キーワード】 需要と供給、人的資本の差、ジョブ・サーチの差、補償賃金格差、偏見・嗜好による差別、統計的差別、アンコンシャス・バイアス、同一労働同一賃金、ポジティブ・アクション</p> <p>【学習の課題】 統計的差別を説明する。</p> <p>【学習する上での留意点】 複合的要因に注目する。</p>  |
| 11. テーマ | 賃金格差と転職の実証分析：労働移動は格差を解消するか   |

|         |  |
|---------|--|
|         | <p>【学習の目標】 転職の効果を実証的に理解する。</p> <p>【学習の内容】 マイクロデータを用いた実証研究を通じて、転職が賃金格差に与える影響を検討する。キャリアアップと賃金低下リスクの違いについて考察する。</p> <p>【キーワード】 市場の二極化、キャリアアップ、賃金低下リスク、一般的人的資本、再就職までの空白期間、マイクロデータ分析</p> <p>【学習の課題】 格差の要因を理論的に説明する。</p> <p>【学習する上での留意点】 個人差に注意する。</p>   |
| 12. テーマ | 失業と不安定雇用   |
|         | <p>【学習の目標】 失業や不安定雇用の原因・メカニズムを理解し、労働市場の摩擦や制度的要因が雇用の安定性に与える影響について学習する。</p> <p>【学習の内容】 UV 曲線や効率賃金理論を用いて、失業の構造的要因および正規雇用の賃金硬直性を分析し、非正規雇用拡大の背景にある制度的要因を検討する。</p> <p>【キーワード】 失業率、フィリップス曲線、UV 曲線、構造的・摩擦的失業、効率賃金、不安定雇用 非正規雇用 temp to perm、無期転換ルール、フレクセキュリティ、訓練税</p> <p>【学習の課題】 無期転換ルールが導入されたことで、非正規雇用の安定性にどのような影響（雇止め等）を与えたか調査せよ。</p> <p>【学習する上での留意点】 失業を単なる個人の問題としてではなく、市場の効率性や社会制度（セーフティネット）の問題として構造的に捉えること。</p>         |
| 13. テーマ | 非正規雇用と失業の実証分析：格差の固定化と政策効果  |
|         | <p>【学習の目標】 非正規雇用の動向や失業からの脱出率に関する実証研究を読み解き、データの背後にある「構造的要因」を特定する手法を理解する。</p> <p>【学習の内容】 パネルデータ分析を用いた実証研究を通じて、非正規雇用から正規雇用への移行の実態を検討する。最低賃金政策の雇用効果について考察する。</p> <p>【キーワード】 パネルデータ分析、ロックイン効果、移行率、ハザードモデル、負のシグナリング、最低賃金の雇用効果</p> <p>【学習の課題】 「非正規雇用は正社員へのステップアップ（踏み台）か、それとも出口のない罠（ロックイン）か」という論争について、最新の实証論文がどのような結論を出しているか要約せよ。</p> <p>【学習する上での留意点】 景気変動（循環的要因）による一時的な失業・非正規増と、産業構造や制度による構造的な問題とを、データに基づいて峻別して考えること。</p> |
| 14. テーマ | 高齢者の就業と引退：長寿社会におけるキャリアと制度設計  |
|         | <p>【学習の目標】 高齢者の就業行動を決定する経済的要因（年金、賃金、健康）を理解し、雇用延長や定年制が労働市場に与える影響を論理的に説明できる。</p> <p>【学習の内容】 定年制度、年金制度、健康要因が高齢者の就業行動に与える影響を整理する。再雇用制度の課題について検討する。</p> <p>【キーワード】 定年制度、年齢差別、後払い賃金の理論、高齢者雇用安定法、公的年金の支給開始年齢、健康維持、社会参加</p> <p>【学習の課題】 再雇用時の賃金低下を、生産性と賃金の後払いの観点から説明する。</p> <p>【学習する上での留意点】 ウェルビーイング（健康や社会貢献）の視点を持つ。</p>  |
| 15. テーマ | 総括：労働経済学の視点から描く日本の未来   |
|         | <p>【学習の目標】 理論と実証を統合し、政策課題を論じる。</p>   |

【学習の内容】 AI・DX、格差、働き方改革を労働経済学の枠組みで総括し、EBPMの重要性を確認する。

【キーワード】 労働経済学の統合、タスク型アプローチ、AIと労働代替、エビデンスに基づく政策立案(EBPM)、ジョブ型雇用、ウェルビーイング、持続可能な労働市場

【学習の課題】 理論と政策の関係を論じる。

【学習する上での留意点】 知識の応用を意識する。